

はじめに

2015（平成27）年に『最新 生徒指導論』が刊行されてから9年が経ち、学校現場は今もなお、暴力行為、不登校、非行、虐待などの課題が山積しています。なかでもいじめの重大事態や児童生徒の自殺者数の増加傾向は懸念される状況にあり、加えて、インターネット問題、多様な背景を持つ子どもたちへの対応も求められ、生徒指導に係る知識の獲得、指導力・対応力の向上はますます重要になってきています。このような状況下で、学校には大きな教育の使命が2つあります。一つは、学力を身に付けさせ児童生徒一人一人のキャリア発達を促進し希望する進路を実現させること、もう一つは、社会性を身に付け立派な社会人としての人格を持つ人間を育成することです。学校が教育目標を達成するためにも、生徒指導は人格の形成を図る上で重要な役割を担っています。だからこそ、問題行動や課題に対応するだけでなく、全ての子どもを対象に発達を支援し、可能性を最大限に引き出す教育を組織的に取り組む必要があります。つまりは、学習指導要領に定められているように、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めていくことが求められているといえます。

そこで、教職課程の学生が生徒指導を行う上での必要な知識を習得することができるよう、また、現職の教師は生徒指導を進める上で実践の場に役立てることができるように、生徒指導提要の改訂を踏まえて、前書を改訂いたしました。本書では、生徒指導提要にまとめられている内容に対し、生徒指導の意義や生徒指導の構造、教育課程との関係、生徒指導を支える組織体制といった生徒指導の基本と、今日的課題に対する関連法規、具体的な指導・対応とそれに伴う発達段階や教育学・心理学的視点を加えた内容となっています。そのため、生徒指導提要と並行して読んで内容を深める、あるいは生徒指導提要を読む前後の導入や学びの補完として活用することもできます。このように、本書が教職を目指す学生たちや現職の教師の羅針盤として、役立つことができ

ii

ば、執筆者一同この上もなく幸せです。

2024年3月吉日

原田恵理子

基礎基本シリーズ①
最新 生徒指導論 改訂版

目 次

第1部 生徒指導概論

第1章	生徒指導の意義と概念	2
1	生徒指導の定義と目的	2
	(1) 生徒指導の定義	2
	(2) 生徒指導の目的	3
	(3) 生徒指導とキャリア教育及び教育相談との関係	4
2	『生徒指導提要』の改訂とその要点	6
	(1) 『生徒指導の手びき』から『生徒指導提要』(2010年)へ	6
	(2) 『生徒指導提要(改訂版)』(2022年)の概要	8
3	生徒指導を実践する上での4つの視点	10
4	生徒指導の人間観・発達観と教育観・指導観	11
	(1) 重層的支援構造モデルによる計画的・組織的な生徒指導	11
	(2) 全ての児童生徒への生徒指導	12
5	個別指導と集団指導の方法原理	13
	(1) 児童生徒理解(アセスメント)とその方法	13
	(2) 集団指導と個別指導の方法原理	14
	(3) ガイダンスとカウンセリング	15
	(4) チーム支援体制による組織的対応	16
6	生徒指導の基盤	17
	(1) 生徒指導の基盤としての教職員集団の同僚性	17
	(2) 生徒指導マネジメントと家庭や地域の参画	18
7	生徒指導の取組上留意すべき点	18
	(1) 児童生徒の権利の理解に関する法	18
	(2) ICTの活用	20
	(3) 幼児教育との接続	20

- (4) 社会的自立に向けた取組 21

第2章 生徒指導と教育課程 23

- 1 学級・ホームルーム経営 24
- (1) 学級・ホームルーム経営の内容と展開 24
- (2) 学級・ホームルーム集団の質を高める生徒指導 24
- 2 各教科における生徒指導 25
- (1) 児童生徒理解を基盤とした教科指導 25
- (2) 各教科の指導と生徒指導の一体化 26
- 3 道徳科における生徒指導 27
- (1) 道徳科と生徒指導の相互作用 27
- (2) 相互の充実に資する道徳科の授業と生徒指導 28
- (3) 道徳科と他の教育活動との関連と生徒指導 28
- 4 総合的な学習（探究）の時間における生徒指導 29
- (1) 総合的な学習（探究）の時間と生徒指導 29
- (2) 協働的に取り組むことと生徒指導 30
- (3) 自己の（在り方）生き方を考えることと生徒指導 30
- 5 特別活動における生徒指導 30
- (1) 学級・ホームルーム活動における生徒指導 31
- (2) 児童会活動・生徒会活動・クラブ活動における生徒指導 31
- (3) 学校行事における生徒指導 32

第3章 生徒指導と学校運営 34

- 1 学校経営における生徒指導の意義 34
- (1) 移行支援を支える生徒指導 34
- (2) つながりの保護因子とリスク因子 35
- 2 チーム学校における学校組織体制の確立 35
- (1) 「チームとしての学校」像 35

- (2) チームが有効に機能するために 36
- (3) 校務分掌 37
- 3 生徒指導体制 37
- 4 生徒指導のための研修と年間計画 38
 - (1) 年間計画の作成 38
 - (2) 実行につなげる研修 39

第4章 生徒指導と教育相談 43

- 1 教育相談の基本的な考え方と活動体制 43
 - (1) 生徒指導と教育相談の考え方 43
 - (2) 教育相談コーディネーターの位置付け 43
 - (3) 教育相談コーディネーターの必要性 44
 - 2 教育相談の全校展開 45
 - (1) 面談週間の実施 45
 - (2) 面談週間で何をするのか 46
 - 3 教育相談のための研修と年間計画 46
 - (1) 教育相談の年間計画 46
 - (2) 教育相談のための研修 47
 - 4 生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援 48
- コラム チームで取り組む教育相談に向けて 50

第5章 学校危機管理と生徒指導体制 51

- 1 学校安全と危機管理体制 51
- 2 学校危機への介入 52
- 3 生徒指導に対する法制度等の運用体制 55
 - (1) 校則の運用と見直し 55
 - (2) 懲戒 56

- (3) 体罰禁止と不適切な指導 57
- (4) 体罰の防止と組織的な指導体制 57
- 4 学校・家庭・関係機関等との連携・協働 58
 - (1) 家庭とのパートナーシップ 58
 - (2) 地域との連携・協働 59

第2部 生徒指導における今日的課題

第6章 いじめ 62

- 1 いじめとは 62
- 2 いじめ防止等の対策のための組織と計画 63
 - (1) 基本方針 63
 - (2) 対策のための組織 64
 - (3) 対策のための計画 65
- 3 いじめに関する生徒指導における指導・支援・教育 67
 - (1) いじめの発見 67
 - (2) いじめへの具体的対応 68
- 4 関係機関との連携 69

- コラム 見えにくいいじめ 72

第7章 暴力行為 74

- 1 暴力行為とは 74
 - (1) 暴力行為の現状 74
 - (2) 暴力行為に関する対応指針 76
- 2 学校の組織体制と計画 77
 - (1) 生徒指導の目標・方針の明確化 77
 - (2) 全校的な指導体制の確立 77

- 3 暴力行為に対する重層的支援 78
- 4 関係機関等との連携と具体的対応 80

コラム 暴力行為（器物損壊）を起こした生徒の思いを知る 82

第8章 少年非行…………… 83

- 1 少年非行とは 83
 - (1) 少年法における「非行」とは 83
 - (2) 児童福祉法における「要保護児童」とは 85
- 2 少年非行の発達段階などに応じた特徴 86
- 3 少年非行への対応 87
 - (1) 少年非行への対応の基本 87
 - (2) 問題行動等発生時の対応指針 87
- 4 少年非行における関係機関等との連携 89
 - (1) 少年非行の刑事司法手続きの流れと関係機関等 89
 - (2) 関係機関等との連携 91
- 5 喫煙・飲酒・薬物乱用 91
 - (1) 喫煙・飲酒・薬物乱用の現状 91
 - (2) 喫煙・飲酒・薬物乱用への対応 93

第9章 児童虐待…………… 95

- 1 児童虐待の定義と学校の役割 95
- 2 児童虐待に対する学校の体制と未然防止 98
 - (1) 児童虐待の未然防止の意義 98
 - (2) 子どもとの関わり 99
 - (3) 大人（保護者など）との関わり 100
- 3 児童虐待の発見と通告 101
 - (1) 虐待の発見と通告 101

(2) 通告に伴う配慮 102

4 関係機関等との連携 102

(1) 関係機関・保護者への情報提供 104

(2) 子育て世帯への包括的支援 104

第10章 自殺 107

1 自殺予防のための学校組織と体制 107

2 自殺予防の段階・原因・動機 108

3 自殺予防に関する重層的支援 110

(1) 発達支持的生徒指導 110

(2) 課題未然防止教育 111

(3) 自殺リスクの高い子どもの早期発見・早期対応 113

(4) 自殺行動が生じた場合の困難課題対応的生徒指導 114

4 関連機関との連携・協働 116

(1) 保護者との連携 116

(2) 医療機関・福祉機関との連携・協働 116

第11章 中途退学 119

1 中途退学の実態と要因 119

(1) 中途退学の実態 119

(2) 中途退学の要因 120

2 中途退学に対する組織体制 123

3 中途退学防止のために学校ができること 125

コラム SEL とは 128

第12章 不登校 130

- 1 不登校児童生徒の社会的自立の支援に向けて 130
- 2 不登校の定義と基本的な理解 131
 - (1) 不登校の定義 131
 - (2) 教育機会確保法に基づく対応 131
- 3 不登校児童生徒への支援方法 132
 - (1) アセスメントの重要性 132
 - (2) 社会的自立に向けた児童生徒への支援 133
- 4 不登校対応に求められる組織体制 134
 - (1) 教育相談体制の充実と教職員の連携・協働 134
 - (2) 不登校対策につながる発達支持的生徒指導 136

コラム SST 実践のためのポイント 138

第13章 インターネットと携帯電話 139

- 1 SNS に起因する事犯の被害児童生徒数 139
- 2 インターネット等における関連法規等 140
- 3 インターネット等の指導における注意点 140
 - (1) インターネットの特性 140
 - (2) ネットの拡散性：ネットリテラシー 140
 - (3) ネットいじめ 142
 - (4) ネットの長時間利用とネット依存 143
- 4 インターネットに関わる問題の未然防止 143
 - (1) インターネット問題の対策のための組織体制 143
 - (2) 児童生徒に対する未然防止の取組 144
 - (3) 家庭との協力と連携 144
- 5 インターネットに関わる問題が生じたときの対応 145
 - (1) 課題早期発見対応（課題予防的生徒指導）に基づく対応 145

- (2) 困難課題対応的生徒指導に基づく対応 145

コラム 課題困難的対応生徒指導 147

第14章 性 148

- 1 性犯罪・性暴力への対策強化と早期発見・早期対応 148
- 2 性犯罪・性暴力への未然防止教育と被害者への対応 150
- (1) 性犯罪・性暴力への未然防止教育 150
- (2) 「生命（いのち）の安全教育」 151
- (3) 被害者への対応 152
- 3 性的マイノリティへの対応 153

第15章 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導 156

- 1 発達障害 156
- (1) 自閉スペクトラム症・自閉症スペクトラム障害（ASD：autism spectrum disorders） 157
- (2) 注意欠如多動症・注意欠如多動性障害（ADHD：attention deficit hyper-activity disorder） 157
- (3) 限局性学習症・学習障害（LD：learning disorder） 157
- (4) 学校における組織的対応 158
- 2 精神疾患 160
- (1) うつ病（気分障害、感情障害） 161
- (2) 統合失調症 161
- (3) 不安症群（パニック・全般不安・社交不安・分離不安・恐怖症など） 161
- (4) 摂食障害（神経性やせ症と神経性過食症・過食性障害） 162
- 3 健康問題 162
- 4 支援を必要とする家庭 163

(1) 児童の権利に関する条約（子どもの権利条約） 163

(2) 児童福祉法 164

(3) 学校が介入する支援 165

おわりに 171

索引 172

執筆者一覧 175